

- 秋季特別展「博弘—古代寺院と祈りの造形—」
(二上山博物館) (10月10日~11月14日)
- お米でフェスタ(役所南駐車場) (11月7日)
- 第3回ウォークラリー in KASHIBA(総合体育館駐車場) (11月21日)
- クリスマスコンサート(モナミホール) (12月19日)
- 消防出初式(総合体育館駐車場) (1月9日)
- 初えびす(北今市戎神社) (1月15日)
- 成人式(モナミホール) (1月15日)
- 駅伝大会(下田小学校グラウンド) (1月16日)
- 結鎖座(下田鹿島神社) (1月26日)
- 演芸のつどい(モナミホール) (2月25日)
- マラソン大会(真美ヶ丘東小学校グラウンド) (2月27日)
- 春休みファミリー劇場(モナミホール) (3月下旬)

詳しくは、広報にてお知らせいたします。

このページは、読者の皆さんのページです。本紙についてのご意見、ご感想、ご質問などがありましたらどしどしお便りください。愛読者メール共々お待ちしております。

〈宛て先〉香芝市本町1397
香芝市役所 秘書課・広報広聴係

(掲載者敬称略)

◆前略 創刊号香芝遊学を興味深く拝読させて頂きました。古代人の生活ぶりに知恵が有り、自然の恩恵にあやかり今も生きづいていられる様に思われます。

二上山と大津皇子、昔も現世も争い事は絶ゆる事無く悲しいですね。色々詳しく知る事が出来ました。香芝の里は一つのロマンです。編集者の皆様の御苦労に感謝

◆香芝遊学と言うタイトルにふさわしい素晴らしい雑誌を手にして感心すると同時に香芝の文化を愛感しました。

二上山物語はとも読みやすく分かりやすくしてしかも名文で綴られていて読む者をしてその昔を偲ばせるに充分で二上山の歴史の感慨に浸りました。

写真が素敵で文章に説得力があったと推察致します。

致します。私お願いが御座居ます。短歌・俳句などを市民の皆様から投稿して頂き遊学に載せて頂くスペースを設けて欲しいのが如何なものでしょうか。

(嫁ぎ来て 香芝の里の 土となる) 乱筆にて。

山本トミ子(五位堂)

次号はどんな風景の旅を楽しませて頂けるのか車イスの私は心待ちにしています。

他市にない企画で誇りとなることでしょうか。

浅井 弘子(鎌田)

◆「香芝遊学」の創刊号が配付されました。表紙を眺めただけで田舎町香芝にも文化の匂いがしてきたように感じました。創刊号が香芝のシンボルと言われている二上山についての特集になっていることも意義あることだと思いました。

しかし二上山が香芝のシンボルと言われているのは、二上山が古代石材の産地としてその名を知られているだけでなく、美しい山容をしている山であることと共に山頂に古代史に名をとどめる大津皇子の墓が現存していることによるものだと考えます。

「二上山物語」という以上まずそのことが語られねばならないと思いますが、何故かそのことが語られていません。二号以後においてぜひそのことを掲載されることを希望いたします。

小生も約八年前から香芝で老後生活をおくることになったのですが、二上山を知ります疑問に思ったことは、何故五百メートルもある高い山の頂上に皇子の墓が置かれたかということでした。地付きの人々にあれこれたずねてみましたが「山頂に大津皇子の墓がある。」こと、大津皇子は立派な人であっ

たらしい。」ということも多くの人知っておられました。「どうして墓参りも容易でない山頂に墓がおかれたのか。」という点になると知っている方がないのです。古老の方にもたずねてみましたが、「わからん、言い伝えなども聞いたことがない。」と言われるのです。

その後小生自身で大津皇子をめぐる古代史の探究をやってみましたが、尚残る疑問は次の点についてです。

●天武天皇には六人の皇子がいましたが、天皇と鶴野皇后の間に生れた子は草壁皇子唯一人です。この皇子は皇太子でしたが天皇位を継ぐことなく不幸にして病没してしまいました。皇后の嘆きは大きかったらうと推察できます。

●大津皇子は第三番目の皇子でしたが、その最後は鶴野皇后により謀反人とされて処刑され、刑場の露と消え去った人です。

以上のような事情があったにもかかわらず、山頂の墓がどうして草壁皇子ではなく大津皇子なのか、また当時の土木技術を考えると五百メートルもある山頂へ墓を置く作業は、大へんな人力と労力を要したにちがひありません。そうまでして何故わざわざ山頂へ墓をおいたのかという疑問が残ってしまうのです。

それにはおそらく深いわけがあったことでしょうか。そしてそのことは伝承や言い伝えをつぶさにさぐり、また歴史学者や作家の見解

をあつめればわかることだと思えます。ぜひこの点を解明されて、「香芝遊学」の二号以後にぜひ掲載していただけることを切望いたします。

次に、特集の中で大津皇子の姉大伯皇女が残された歌が記載されていますが、この万葉集にのせられている皇女の歌には次の事情があったと言われております。

大伯皇女は伊勢神宮の初代の斎宮をつとめていましたが、大津皇子処刑後謀反人の姉ということと斎宮職を解かれ大和へ帰されました。その後皇女は弟大津の故なき死を深く悲しみ、自らの手で二上山の山麓に小寺を建てて弔ったのですが、その折によまれた歌が「うつせみの人なるわれや……」であったそうです。

この小寺の位置はさだかではありませんでしたが、一昨年石光寺の本堂再建に伴う発掘調査で本堂建立以前に小寺のあったことが発見されました。叢掘に当られた学者が、この小寺こそ年代からみて大伯皇女が大津皇子のために建てた小寺であらうという見解を表明されました。

この辺の経緯も「二上山物語」としては語っていただけるよう希望するものです。

以上一市民として懇々提言する次第ですが、そちらの見解についてぜひご返信下さるようお願いいたします。

浅井 美雄(鎌田)